

第67回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和6年10月28日（月）午前10時から午前11時55分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂 4階 会議室5

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 17人

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 愛知県公立大学法人第四期中期目標に関する意見について
- (2) 愛知県公立大学法人第四期中期計画に関する意見について

6 議事概要

【愛知県公立大学法人第四期中期目標に関する意見について】

- 第四期中期目標に関する意見を決定した。

【愛知県公立大学法人第四期中期計画に関する意見について】

- 第四期中期計画に関する意見を聴取した。

【質疑】

(1) 愛知県公立大学法人第四期中期目標に関する意見について

○ 委員

国立大学、公立大学、私立大学のそれぞれがどういう役割を持っているか考えてみました。愛知県立大学というのは、愛知県のためにあると思います。名古屋市の中期目標を見ると、名古屋市民のためにとというのが明確に書かれています。名古屋市民の成長のためだとか、文化や生活を支援すると書いてあります。兵庫とか福岡を見てみても、兵庫をフィールドにとか兵庫に集積する世界トップレベルの研究の支援とか、そういうものに貢献したいと書いてあります。出来れば、「設置者である」と言った書き方ではなくて、「愛知県」というのを、たくさん盛り込んで欲しいなと感じております。なので、内容的には、愛知県が目指すところに向かって、この学校が目指していくという戦略的なイメージになっていると思います。時間をかけて修正していただいたと思いますので、感謝しています。

○ 事務局

ありがとうございます。文書照会や評価委員会の中でも色々ご意見をいただきました。県と公立大学法人との連携や、県の方向性について、県立の大学として、足並みを揃えて行ったらどうかといったようなご意見いただいております。それらにつきまして、今回エッセンスでございますが、いろいろ踏まえまして、議会に提出するというところでございますので、具体的な政策の名前まで入れることは、なかなか難しかったところがありました。委員の意見を踏まえた、エッセンスを入れまして、今回の修正案としました。

○ 委員

委員のご発言は、「設置者である愛知県が」というよりも、愛知県が目指す方向性として、愛知県の産業を牽引するような人材とか、愛知県が持っている方向性に合致するような形で、県立大学も戦略性を持って教育・研究を行うということが表現されていると良いのではというご趣旨ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○ 事務局

資料1の2つ目の項目で、「設置者である県の施策と」というところを、具体的に「愛知県の施策と」として、もう少し踏み込んだ、直接的な表現になるのかなと思いますが、どうでしょうか。

○ 委員

先ほど、おっしゃった「牽引する」とか「後押しする」とか、そういう言葉があると良いなと思うくらいです。

○ 委員

資料2の第四期中期目標の前文の「法人を設置する目的」の最後のところが参考になるかなと思います。前文の中に、「教育研究の成果を県民・地域に還元することを通じ、県民の生活及び文化の向上に貢献する」とありますので、目標にも、「県が法人を設立する目的」のところから、少し抜粋してはどうか。「設置者である県」という表現は少し硬い気がします。目的をもう少し具体的に書かれても良いかなと思います。

○ 委員

追記していただいた「設置者である県の施策と密に連携することで」の部分について、その施策の中身をもう少し書かれた方が、方向性がはっきりすると思います。例えば、製造業が日本有数の集積地であるとか、産業の集積地である地域の人材育成に貢献するとか。県のビジョンの名前を書くのではなく、中身のところで連動していることが分かるような書き方であれば良いと思います。

○ 事務局

具体的な表現は改めて検討させていただきますが、ここにもう少しビジョンの目的なり、県の方向性なりを入れた表現を入れるということで、修正案を考えてみたいと思います。また、評価委員会にお示ししたいと思います。

○ 委員

第三期の概要版についてはチェックしていませんが、第一期から4枚並べたときに、概要の内容は、発展してきているのだろうかというところが気になりました。今議論をしていますが、愛知県はこうなっていくべきだという話をしていの中で、大学は四期にわたって、少しずつ目標とするところが変わってきているのでしょうか。また、先ほどから愛知県について話が出ていますが、愛知県は確かにものづくりが盛んですけど、愛知県は果たしてこのままでいいのかというのを、県立の大学として考えて、ものづくりだけじゃなくて、こういう方向に行けたらいいのではないかということも盛り込んでいけるような大学であって欲しいなと思います。それだけ自由度がある大学だと思うので、そういうところが目標に入ってくるようになるといいなと思います。この書類を今変えろと

いう話ではないのですが、次の期のときに、長期的な目標と、今後愛知県がどうなっていくのかということを見越したような話を入れていただけるような方向に持って行って欲しいなというふうに思いました。修正については、頂いた案で結構です。

○ 委員

私も他の委員の方々と同様の認識を持っておりまして、特に芸術大学に関してお願いをしたのですけれども、意図としては、この次の中期目標は、リニア開通後の準備に目標が定まってくるのではないのかなと思っております。リニアは若干遅れるにしても、おそらく開通はするでしょう。その場合、名古屋駅から東京の芸術大学、これは東京藝大だけではありませんが、国公立含めまして東京に幾つもございます。そちらに名古屋駅から向かう時間と、県立芸大に行く時間とほとんど差がなくなってしまう。もっと言えば、県立芸大に行く手前で、駅で降りて歩いている頃に、もうすでに東京のキャンパスについてしまっている、そういう状態になる。現在でも、愛知県出身の芸術分野で活躍されている方をよく目にするのですが、残念ながら、その方々の多くが東京の大学に進まれている。県立芸大に行かれて、その成果を踏まえてさらに高い評価を享受されている方を、まだ多く見かけるわけではないです。その時に、リニアが開通したらどうなるのでしょうか。さらにもう1つ、昨日も選挙ございましたけれども、その中でも、身を切る改革とか、そういったことが繰り返し言われておりました。どういうことになるか分かりませんが、なかなか公費の支出については今後も難しいと思います。そういう中で、芸術文化に携わる優れた人材、特に音楽の場合ですと演奏家ということになるわけですが、そこでどういう特色を打ち出せるのか。政治環境等が厳しくなった際に、県民にアピールできるような、あるいはリニアまで開通して、東京に行きやすくなったときに、今度逆に東京からもこういった分野は、愛知県立芸大に行かないと学べないじゃないかと。むしろ、東京から受験生を引っ張ってこられるような、そういうものをどうやって開発するのか。これがこの中期目標の課題ではないのかなと思ひまして、このような意見を出した次第です。もちろん専門の先生方からご覧になれば、いろいろなご意見があるかと思います。ピント外れのことを言っているのではないかと危惧しておりますが、愛知だからこういうことができるのか、愛知にはこういう芸術上のこれまでの蓄積があるのかといったところを、もっとアピールする、そういうことも必要なのではないかなと感じておる次第でございます。今改めて、こう直して欲しいということはもう申しませんが、趣旨としてはそういうことでございます。今後の具体化において、ご検討いただければありがたいと存じます。

○ 委員

ただいまのご意見については、具体的に中期計画の方でご議論いただければと思いますので、後ほど第四期中期計画に関する審議の中で、再度ご回答いただく機会もあろうかと思えます。他に、ご意見はございますか。

(意見なし)

○ 委員

先ほどの冒頭のご指摘につきましては、事務局と再度文言について調整させていただくということで、その他のご意見につきましては、修正を求めるものではないというご発言でした。これで審議を終了し、これをもちまして、第四期中期目標案に対する評価委員会の意見とさせていただきます。

(2) 愛知県公立大学法人第四期中期計画に関する意見について

○ 委員

県立大学のアントレプレナーシップやインキュベーション施設についてお伺いしたいです。愛知県がステーションA i を設立しましたが、この会員になる手続きについては、もう進めてらっしゃるのでしょうか。

○ 県立大学

私が把握している限りでは、そういう手続きをやっているというよりは、インキュベーション施設が教育機関の中に作られるので、その施設を活用した形の教育や起業というものに繋がっていくことがどういうふうに行けるかということを検討しています。メンバーシップについては、私が把握している限りでは、今のところステーションA i の方に入っていくということをやっていないんじゃないかと思えます。

○ 委員

せっかく愛知県が設立したもので、愛知県立大学や芸術大学が率先して、優先的に使わせてもらうのがいいと思います。もう今年度からできることだと思いますので、ぜひ具体的な進め方というのでも検討してもらえるといいのかなと思います。学生さんも、学内での学部間・大学間での情報共有は大切ですけれど、やっぱりもっと広い世界を知るといのは、非常にその人たちの脳の活性化にもなりますし、新しい発想力や想像力の活性化も促進されるので、ぜひ具体的にお考えいただけるといいと思います。よろしくお願いします。

○ 県立大学

ありがとうございます。非常に貴重なご意見をいただいたと思います。ステーションA i と全く何もしないという話ではなくて、当然、両方とも愛知県によって作られるものですので、何らかの形で、学生がもっと広い世界や今まで見たこともないような世界、学内では分からないようなことに触れていく機会として、提供してもらえるものや乗り込んでいけるものがあれば積極的にやりたいと思っています。そのことは県の方々も承知していただいているので、具体的にどういことをやるかというのは、これから検討していくことになると思います。言ってくださった趣旨を少しでも学生に展開できるように考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

○ 大学法人

少し補足をさせていただければと思います。10月31日にステーションA i がオープンしますが、実は11月4日に、関連しているフランスの高等機関をお呼びしまして、県のスタートアップ担当部局とともに、スタートアップ関係の国際シンポジウムを開催する計画を立てております。ステーションA i で開催する予定でありますので、少し補足をさせていただきました。

○ 大学法人

インキュベーション施設ができますので、大学としては、やはりそちらの方が非常に重要と考えていますけど、当然ステーションA i の方とも連携しながら、やらせていただけることはやらせていただきます。

○ 大学法人

補足をさせていただきます。県立大学としては、ステーションA i には加盟していないのですが、愛知県公立大学法人として、10月から会員登録をしております。別途料金がかかりますが、最低限、コワーキングスペースのような必要な施設を活用できたりするような準備は整えているところでございます。

○ 委員

ステーションA i との連携については、本当に頑張ってもらいたいと思います。先週、金融機関の人たちと話をしたら、結構金融機関もかなり興味深く、出て行くというような話をお伺いしました。産官学金でいくと、色々な分野の方が興味深くもってみえるので、ぜひ発展していってもらえればと思います。少し細かいところですが、県立大学のとこの15番で、6年間で外部資金獲得件数

60件以上となっております。外部資金獲得については、結構難しかったと思いますが、妥当な数字なのでしょうか。また、19番のリカレント教育プログラムを70件以上とか、芸術大学のところでも、28番の受賞実績を毎年度50件以上とか、結構大きい数字が出ているところがあります。ある程度達成可能な件数であるかどうかについて、少しご意見いただきたいと思います。逆に、件数が入っていないところで、例えば、芸術大学の22番のところ、両学部が履修可能なキャリア教育科目を新設するとなっております。1つでも新設すれば、新設することになるのででしょうか。同じようなところは、もういくつかあります。件数が入っていないものもあれば、入っている数字について、今までの経験則からして、達成可能なものなのか、そのあたりが少し心配になりました。また、法人・大学運営の38番のところ、正規職員の割合について記載がありますが、現行が何%で、これから65%にするのか知りたいです。また、39番についても、現行の管理職の比率が何%で、これから40%にするのか、もう少し、数字の背景を教えてください。

○ 県立大学

ご指摘のありました外部資金について、どういうものを外部資金としてみなすかは、科研費だけにとどまらないところがありまして、受託研究費など色々なものがあります。そういうものについて、これまでの第三期の実績を踏まえて、達成が絶対にできる数というよりは、目標として妥当な数として、6年間60件以上という数字を決めております。リカレントの部分についても既に取り組んでおります。これは事業として採択されて、2023年度の半ばから進めているものです。その実績を踏まえた形で、指標設定がされて、これを担当するそれぞれのセンターと副学長が何十回とやりとりをした上で、設定しております。

○ 県立大学

今説明があったとおりですが、8月に、指標について可能な限り数値化するようにと、ご指示をいただきまして、その後、担当するセンターと何度も打ち合わせをしながら、実績も踏まえながら、出した数字であります。ですので、出ている数字については、第三期の実績を踏まえたものになっております。

○ 芸術大学

ご意見いただきました件のうち、まず1個目について、芸大は毎年知事表彰等ありますので、毎年の学生の受賞実績については、芸術情報・広報課という課で件数を集約しております。いわゆる我々ぐらいのレベルの芸術大学と比べて、受賞実績は多い方と言えるので、この数値については、達成できるだろうというこ

とで、執行部で議論しまして、結構頑張った数字を出しました。次に、数値化できてないのではないかと言われた22番については、キャリア教育科目を新設するというので、音楽学部と美術学部で実技のやり方が異なっております。分かりやすく言うと、美術は午前中が実技で午後が学科、音楽の方も基本的には同じなのですが、個人レッスンがありますので、午前午後にまたいで実施するときもあります。また、オーケストラ等の練習は金曜日の午後にやりますが、色々な楽器の学生が集まりますので、なかなか両学部が履修可能なキャリア科目を新設するためには、色々な問題があることが分かっています。キャリア支援科目に関しては、これをやるということ自体が結構大きなハードルがあると考えております。

○ 大学法人

正規の職員については、現在55%となっております。非正規比率としては、40%台となっておりますので、これを何とかして、30%台にしたいということを目指しております。また、女性の管理職でございますけれども、現在は概ね40%近くおります。さらに高みを目指したいという目標を立てさせていただきました。

○ 委員

県立大学は高校との連携について、芸術大学は学長直下に広報組織を置くということについてお伺いします。高大連携と言っても、なかなか具体的に何をしたらいいのかという課題があります。例えば、高校に出かけて行くとか、高校生に大学に来てもらうとかあると思いますが、それを高大連携と言っていいのか。それで効果が出るのかという疑問があります。高大連携については、両大学においても大事なものだと思いますが、例えば、もう高校と言わず、中学校とか、もっと踏み込んで広報をしていかないと、なかなか高校生が来てくれないと思います。どこの大学でも書いてあるようなことも書いてありますが、具体的に踏み込んだ案を考えているのか、その辺りを聞きたいです。

○ 県立大学

今ご指摘いただいたところは、いくつかの次元でお答えした方がいいのかなと思います。まず、中学校や高校への広報や呼びかけについては、文理横断・領域横断ということで新たな領域を作るという大きな事業が採択されており、現在それに取りかかっております。それはもともと準備段階から含まれるので、ニーズ調査とか外部の人たちの意見をアンケートで聞くという期間が、既に始まっています。高校などでどういう教育がなされていて、どのようなニーズがある

かということも含まれております。そういったなかで、我々がこれから展開しようとしている教育などを広報するというルートが1つあります。どの次元で連携をするのかというご質問は本当にその通りで、以前委員が県立大学に訪問してくださったときに、課程外のところで、学生たちが自主的な研究をしているということを申し上げました。学生自主企画といいます。大学が少し資金を出して、領域を跨りながら、他の学部と連携して学生たちがやっていくというものです。先週、探究の科目をやっている千種高校の生徒たちが、20名ぐらい先生たちと一緒に来て、高校生たちがやっていることを、我々の大学の学生たちがコメントをするといったことを実施しました。そういうレベルでの連携や協力も、地道かもしれませんが、高校や大学で行われていることを、学生や高校生たちがどのように見るのかという場として、初めて実施しました。それ以外では、高校がそれぞれ特色を出そうとしていますので、国際バカロレアみたいなことを目指す高校では、我々の大学においては、それに即した教育研究を実施してきておりませんが、高校にとって必要な情報やリソースを提供できる研究者たちはいますので、そういうところで協力していくことを考えています。そのような次元がいくつかありますけれど、大きな組織的なものになれば、愛知県教育委員会と大学、県立高校でやり取りして考えていくことになります。そういったことを支える意味でも、いろんな次元で連携しているということになります。

○ 芸術大学

広報の取組について、ご指摘いただいた部分についてお答えします。広報には、ステークホルダー・受け手のことを意識してやらなくてははいけません。一般大学の場合は、そのステークホルダーが高校3年生であり、ターゲットだったりしますが、芸術大学の場合は違います。例えば音楽だったら、高校3年生に働きかけしても響かないです。なぜかと言うと、もっと小さい頃からやっていないといけなないので、ピアノはもっと下のところに働きかけないといけません。10年後を目指してやるとかという特殊な広報活動になります。美術の方も、県立芸術大学ぐらいのレベルになると、美術の実技の専門の予備校に行かないと、合格できないぐらいのレベルを誇っておりまして、予備校と変なふうにべったりすることはもちろんできないのですが、高校生等に関して外部で開かれている受験説明会等に積極的に出かけていくことはやっております。いずれにしろ、ステークホルダーに正しい情報を届けるためにどうしたらいいか、両学部の広報委員会で話し合っているのですが、今言ったようにステークホルダーが色々散らばっているので、なかなかまとまらなかつたりします。そういったことも踏まえて、自分自身が広報委員長を長く務めた経験もありますので、全学広報会議を置いて、大きな方針を打ち出したり、整理したりするということを積極的にやるようにし

ています。あとは、2年後に60周年を迎えますので、そういったこともリーダーシップをとって、その取りまとめについても、この全学広報会議でやっていきたいと思っています。大きく分けると、入試広報と、大学のブランド力やプレゼンスを上げる広報に分かれるのですが、入試広報はある程度整理されていて、予算化されて、実施している部分が多大にあります。しかし、ブランド力を上げる広報については、戦略的にやっていかなければいけない部分があります。県立芸術大学には、企業でブランド専門の仕事をしていたデザイン科の先生がおりまして、そういった先生たちの意見を取り入れながら、進めようとしています。また、大学としても多くのイベントやっておりますが、それを積極的に広報することもできておりませんでした。例えば、一昨日「こども愛知芸大」というのをやりましたが、それも大盛況で、大きく報道機関に取り上げられました。こういった動きを、すぐに報道機関に直接ご連絡するような体制も整いつつあります。

○ 委員

たくさん取り組まれていることが、よく分かりました。こういう表になって出てきたときに、取り組んできたことをきちんと記載して、それが、新しい中期計画になったときに、ちゃんと前より進んでいるということ、見える形にしておかないといけないのではないかと思います。その部分をおろそかにしている大学の評価は、下がると思います。それだけやっているのに、記載していった方がいいと思います。

○ 委員

まず、県立大学に伺いたいのですが、先ほども項番5のところ、既に学内自体がダイバーシティといったご指摘がございました。浜松、豊橋、豊田、刈谷、四日市まで、この辺りは日本の中でも一番在留外国人が多い地域です。特に豊田市は、初等教育の語学教育への対応等について、大変苦勞されていると聞いております。外国人集住都市会議についても、豊田が主催して、いくつかの町が加盟して、持ち回りで課題などを議論しているのではないかと思います。県立大学が通訳学コースを設置されたというのも、そういった背景があるのではないかと拝察しておりますし、以前そのようなことも伺いました。こういったことを、地域連携のところで、もっと具体的に書かれてもよいのではないかなと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。2点目として、それからもう1つ、芸術大学なのですが、学長も先ほどおっしゃいましたが、科研費を取る際に、文化財の修復と別のものをかけ合わせることで、何とか申請をしているというようなことをおっしゃっていました。美術は文化財修復で名を馳せていることは大変すばらしいと思うのですが、今度はそれが足かせと言いますか、クリエイテ

イブな活動をしようと思うと、かえって修復の方ばかりが注目されてしまうことが、他の分野にとっては、必ずしも良い面だけではないということもあるのかもしれない。ただ、私はそれでも、芸術大学の美術と言え、文化財修復であり、この分野では日本でも名が通っているのだと。そういうふうに誇れるものがあるというのはすばらしいことだと思います。あとはこれをどうやって邪魔にならないように利用しつつ、さらに広報につなげていけるか、そこが課題だろうと思います。そこでまた戻ってしまうのですが、音楽の方でどういうふうにそれをつなげていけるか、その点について、アイデアを含めて、お教えいただければと思います。20年ぐらい前に、プラハの音楽院に2年留学して帰ってきたピアノ科出身の人と、たまたま会って話をしたことがあります。帰国リサイタルを開かなければいけないのだと言うので、何を弾くのかと聞いたところ、前半にベートーベンとシューベルトで、後半にドビュッシーとラフマニノフと言っていました。プラハの曲はないのかと聞きました。大変だとは思いますが、毎年テーマを設定して、チェコの音楽を中心にリサイタルを10年やっていけば、勝手にチェコ大使館が後援してくれるようになるよと。多分そういったことも含めて、プロデュースという事ではないのかなと思います。もう少し逆のことを言いますと、チェコで勉強しても、ウィーンで勉強しても、名古屋で勉強しても、実はこの実技という方面ですと、やっていることに大きな差がつかない。これがこの分野の特質ではないかと思います。だからこそ、愛知県立芸術大学ならではのものについて、どういう形でもいいのでやっていかないといけません。県議会に対するアピールとしても、少し物足りない部分があるような気がします。豊田から刈谷に至るこの西三河地域は、男性の人口が、どこも6割ぐらいで、若い女性が少ないです。愛知県全体としても、この数年ずっと20代の女性だけが首都圏に流出している状況です。そのことも関わってくるのかもしれない。つまり、芸大の卒業生がどうやってこの地域で活動していくのか、そういったところにも関わっていくのかと思います。毎年50件以上の受賞実績ということは、それだけこれまで以上に学生を後押しして、どんどん外に出て行けと指導されるのではないかと思うのですが、その際に、今申し上げたようなことを、具現化できるような、何かアイデアを教えていただければと思うのですが、いかがでございましょうか。

○ 県立大学

貴重なご意見ありがとうございます。委員からご指摘いただきました愛知県という地域を私たちがどう認識するかということについて、異文化やグローバルに結びつけて理解しているのであれば、地域に還元・貢献・連携の部分で、もう少しそれを出す方がいいのではないかというご指摘をいただいたと思っ

ます。言うまでもなく、愛知県の外国籍住民数はずっと全国2位であり続けているのはもう周知のことです。地域連携の事業としての主体は色々ありまして、例えば、コミュニティ通訳学コースの方だと、外国籍住民で90年代の初めにこられた方々も、高齢化しています。ですので、そういう方々に向けた、例えば年金や社会保険がどうなのかといったことを、同時通訳や学生たちによるスペイン語、中国語の同時通訳を交えた企画なども既にやっております。教育分野の方だと、例えばスペイン、ポルトガル、ドイツの教員と連携しながら、日本の教育状況をどう考えるかという企画もやっています。実は、外国語学部はもちろんのことで、日本文化学部では、18名の教員のうち3名は外国籍の先生です。韓国、ドイツ、ウズベキスタンの方々です。教育学の方にもペルー、韓国、中国の出身の先生がいます。もちろん我々と同じように専任の教員としてのポストです。実は文系の教員は、これまで随分と閉じていた世界だったのですが、次第に変わりつつあります。看護学部の方でも、タイの大学と協力したり、オーストラリアとかアメリカに連れて行ったり色々なことやっています。

○ 県立大学

外国籍住民に対して、本学ができることに関しましては、主に実績として、教育及び研究のところに、具体的な計画を持っております。先月9月にも、愛知大学との連携で、豊田と豊橋の方で、法律相談等を通訳付きでやらせていただいております。初めての試みだったのですが、学生が関わるという形で、今回の中期計画では教育のところに入れております。

○ 芸術大学

科研費等に繋がるアイデアの問題については、知っている限りのアイデアでいうと、例えば音楽のピアノの先生と、体育の医学博士の資格を持っている先生が組んで、曲を弾いているときにどの筋肉が動いているのかという研究をやられていたという事例は知っています。音楽科の先生と多分野の先生が関わりを持って、普段からコミュニケーションを取るということが、こういった研究に繋がると思っていますので、項番22や23で説明したようなこれまでの枠組みにとられない教育研究を進めることで、そういったことが少しずつ進んでいくことが期待できると思います。クラシック一辺倒で、県立芸術大学の音楽は代わり映えがしないのではないかなというようなご指摘があったと思います。これは自覚している部分もあるのですが、音楽というのは、もともとある楽譜について、その人の表現で深く研鑽を積むということが、まず学生に与えられる1個の技術なので、そういったことも踏まえながら、新しい分野にチャレンジすることも考えていかなければいけません。背景には、クラシック人口が減っている

というデータが出ているので、明るい未来の数字ではないです。これに対して、どういったことをしていったらいいのかということも含めて、先ほど言いました「こども愛知芸大」のようなことをやっています。そういった全体のことを含めて、今後芸術家やアーティストを支援していただくということは企業の方や近隣の機関の人たちと現在話し合っており、これからいろんな取組を進めていただけるように、お願いしているところであります。

○ 委員

それでは、私からも若干質問とコメントをさせていただきます。先ほど理事長や学長からも言及がございましたとおり、この第四期中期計画素案を策定するにあたり、指標の策定の仕方につきまして、色々コメントさせていただきました。私のところにも、関係者の皆様においでいただきまして、1時間半にわたって勉強会を開催いたしました。その時に提示された案に比べますと、両大学とも、精緻に指標をお考えいただきまして、ご尽力に対して、まず敬意を表したいと思います。今回、拝見しております素案は、非常によく練られたものだと感銘を受けました。他の公立大学、国立大学と比べても遜色のない、きちんとした形で指標が提示されていると思います。その上で、若干質問させていただきたいのですが、まず県立大学の項番1番、それから項番9番で、高校生向けニーズ調査を実施するということが書かれております。文理融合型の教育を展開するということは1つの強みとなると思いますので、大いに奨励していただければと思いますが、そのニーズを把握する上で、なぜ高校生なのかというところが気になります。と申しますのは、最終的にその学部を卒業した方が、社会でどれぐらい勝負できるか、労働市場でスキルが活かされるかということを考えますと、むしろ高校生ではなく、産業界のニーズを聞くべきではないかと思います。ご参考までに、私は数年以上前かと思いますが、当時の森岡副知事が座長でいらっしゃいました愛知県の産業人材育成連携会議の委員を務めておりました。産業界のリーダーや労働界の方ですとか、学界・行政の代表者等が揃いまして、どういうニーズが重要なのかを議論する場でもございました。その経験を踏まえますと、高校生向けのニーズ調査も1つの手段としては重要かと思いますが、それだけではなく、むしろ産業界を含めた形で幅広くニーズを探っていただくとよろしいのではないかと思います。それから2点目ですが、芸術大学について、非常に意欲的な指標をたくさん提示していただいて、学長も頑張ったとおっしゃいましたけど、それが窺われる内容になっていると思います。ただ、芸術大学と県立大学が共同で教育を提供するということが、複数の項番で記載されておりますが、書きぶりが若干違っておりまして、県立大学の項番2では、「教養教育科目において単位化を伴う愛知県立芸術大学との連携授業を新たに1科目以上開講する」と記載されて

おります。他方、芸術大学の項番23番では、「県立大学との教育に係る連携事業について検討し、第四期最終年度までに実施する」と書かれています。若干温度差があるように見受けられますので、同じ法人下にあるのですから、ここは統一していただき、整合性を持った形で記載いただいた方がよろしいのではないかと思います。それから、先ほどから議論になっております、芸術大学の項番22に関して、複合芸術研究と性別・国籍・障害等に関わらず、芸術を展開していくという方向性は大変すばらしいと思いました。これに関して、先ほど他の委員からご指摘がありました、どこに焦点を当てるか、他の東京にある芸術大学とどこで差別化を図るのかという点で考えますと、先ほど県大学長から、愛知県の特徴や強みは、県自体の外国人人口が多くて、多様性を持っている点であるというご指摘がございました。そう考えると、音楽も美術もそうですが、芸術は非常にグローバル化していて、昨今インバウンドの方たちも、すでに観光名所ではなく、特定の芸術や美術館を目的として、リピーターとして、日本を訪れる方が多いと報道されております。瀬戸内海の島にある美術館が、欧米の観光客にブームで、瀬戸内海の船が欧米人の乗客が多くて地中海クルーズのようになっているという話も聞きました。そのように日本の芸術に対する関心も非常に高まっているという状況を考えますと、そういう方面に、愛知県立芸術大学の強みを打ち出すのも1つの方策としてあるのではないかと思います。例えば、先ほど県大学長からもお話ございましたように、県大ではペルーの教員ですとか、他の地域の教員も採用されているということでした。同じような形で芸術大学につきましても、例えばラテンアメリカの音楽、あるいはアフリカの音楽と西洋音楽の融合、もしくは日本の音楽との融合を図るとか、グローバル時代であるがゆえに、伝統的な西洋音楽にとらわれない新しい芸術の形を模索できると、もしかすると、芸術大学と県立大学の、コラボレーションの1つの形となる可能性があるのかなと思います。また、芸術大学の新しい柱になりうるという気もいたしました。ご検討いただければありがたいと思います。それから、県立大学において、多文化共生について、地域貢献をされているということですが、ぜひそれを研究にも展開していただけるとよろしいのではないかと思います。例えば、先ほどお話になられた年金のことですとか、外国人籍の方々が、日本社会において定着し、高齢化していく中で様々な社会的制約や課題を抱えておられるとすると、多文化共生を図る日本の中で、愛知県が先進的な県であるといえるのであれば、こうしたテーマの研究の蓄積は他県にも非常にインパクトをもたらす研究になると思います。ぜひ研究面でも展開していただけるとよろしいのではと思いました。

○ 県立大学

先ほどご指摘いただきましたニーズ調査についてですが、採択された事業の

ニーズ調査は、高校だけではなくて、企業や学外の人たちも協力してもらって、部会とか委員会形式のものを立ち上げて、ニーズ調査をしていくことやセカンドオピニオンとして回っていくとかっていうようなことも事業の中に入っていると思います。高校生だけということにはならないです。これからどうやっていくのか検討していきます。また、外国籍の人たちに対して、日本にずっと住んでいてもらうために必要な取組を研究にも反映して、愛知県が牽引するというところに繋がるのではないかというご指摘については、本当におっしゃる通りです。私個人の見解ですが、9月にメキシコで行われた日墨学長会議というのがありまして、国立・公立・私立の9大学が日本から参加しました。公立大学は日本で101個ありますが、参加したのは愛知県立大学だけでした。様々な産学連携の地球規模の課題にどのように取り組むかというのをプレゼンする会議でした。そこでは、大学連携のマッチングが行われていて、私もそこで色々な大学からオファーを受けました。ベラクルス州立大学という大学の、造形芸術・プラスチックアートをやっておられる日本人の先生から、ぜひ県立大学と連携してみたいということをおっしゃられました。私からは、実は、私達は兄弟姉妹校として芸術大学があることを伝え、アートの部分での連携をということで、すぐに協定書を結ぶ話ではないのですが、一緒に何かできることがあったら少しずつでもやっていこうというふうに、その大学の学長とも話をしました。何を申し上げたいかという、具体的に、すぐにこれをやるということではないのですが、そういう形で2大学の結びつきを色々なところで展開していければと思っているので、これから少しその部分を期待していただければと思います。

○ 芸術教育

県立大学との連携については、STEAM教育ということが言われ始めまして、まさに県立大学と芸術大学の連携事業はそういったことの実現に向けて進めていきたいと思っています。普通大学との連携なので、少し難しい部分もありますが、例えば、名工大のアートフルキャンパスも参考になると思っています。また、インクルーシブアートについては、今まではアールブリュット等において、障害者の方のアートをどのように取り扱って、どのように学習するかということを進めてきましたが、インクルーシブアートは障害の有無だけでなく、年齢とか性別とか国籍などに関係なく、誰でも参加できるということで、もう少し開かれた感じの授業・科目になっていくのではないかと考えています。あと、瀬戸内の美術館のお話もされましたが、実は芸術大学も瀬戸内トリエンナーレにブースを持っておりまして、そこをベースに、普段から音楽をやるなどの活動をしてきました。ただ、予算不足で、なかなか継続できていない状況で、今はやっていない状態です。最後に、クラシック音楽の可能性について、ご意見いただきました。

例えば、日本×西洋ラテン×西洋音楽のように、美術の方は、既に海外の影響をたくさん受けているので、学生の中でも、国際的に通用するような、作品を作っている人もいますが、音楽の方は、その人の器を壊さないところで深みを作っていかななくてはいけない部分あります。ご提案いただいた、グローバルクラシック音楽については、もう既に先生たちに働きかけており、例えば、管打楽器の人と一緒に演奏することにより、何か新しい可能性が生まれるのではないかと思います。

○ 委員

例えば、こういうことは考えられないでしょうか。愛知県出身の作曲家の作品で、もう埋もれてしまったような、最初に書かれたとき以来全く演奏されていないものがたくさんありますよね。いわゆるファインアートだけではありません。テレビの音楽、劇伴、映画音楽、例えば30年前には一部のマニアがゴジラの音楽やウルトラマンの音楽を演奏会でできないかなんてことを言っておりました。本当に一部の、怪獣マニアみたいな人が言っていたのですが、今はむしろ、ゴジラの作曲家の方はもう、日本で一番売れる作曲家と言ってもいいぐらいになってしまいました。中学生日記みたいなものに、どれくらい劇伴があったのか知りませんが、もし愛知県の出身の作曲家が手がけていたならば、面白いかもしれませんね。ガンダムだろうが、何だろうが構いません。どんなものでも結構です。あるいは、そんな大げさなものではなくて、ピアノ1つでもいいです。例えば、最初に書かれて以降、全く演奏されていないようなものを1年に1つでもいいので楽譜におこしていく。こういうプロジェクトであれば、県議会などにも通りやすいです。愛知県に埋もれた過去の芸術家の作品に光を当てる。それらの曲について、前にも申したのですが、例えば浜松には100年前のピアノやバイオリンのコレクションがあるようですので、それを使って再演する。これがいい案だと言っているわけではありません。ただ、そういった県議会にかけても、喜んでもらえるようなものや、昔のドラマなどに郷愁を持って見ていた人が、耳を傾けてくれるような、そんなものでもいいのではないかと思います。申し訳ございません。調子に乗って、あまり建設的ではないかもしれませんが。マニアックな話かもしれませんが、少し思いつきで申しました。馬鹿げたことであれば、どうぞ忘れていただければと思います。

○ 芸術大学

芸術大学に、名古屋に残る雅楽の楽器が寄贈されています。というのも、江戸末期から明治にかけて、名古屋の旦那衆達は、嗜みとして雅楽をご自宅でやられており、そういうものがまだ残っている家がありまして、そういったところから

寄贈いただいたものです。それを教育に今後活かしていく形で、準備しているところです。また、音楽学の若い教員の研究テーマの1つに、第一次世界大戦中の名古屋におけるドイツ人捕虜の活動についてというものがあります。そういう人たちがどういう音楽活動をしていて、どういったことをしたのかという内容の研究をしています。その中で、私も聞いて驚いたのですが、ここからそんなに遠くないところに、ボンボンという有名な喫茶店がありますけども、あそこのドイツ風のお菓子は、その当時に捕虜の方が伝授したレシピに基づくものだそうです。そういった研究で、名古屋にある西洋音楽の歴史みたいなことを大学として、大きな脈絡として提案できるようにしたいということで整理しています。資料室みたいなことを想定していますが、まだそこまでいっていません。あとは、松坂屋の前身のところでオーケストラをやっていて、その関係者の写真の資料があって、それも寄贈していただいております。そういったものを、いずれは体系的にきちんとご提示できるようなものになると、今仰られたような、愛知県、名古屋の芸術の流れを大学からアカデミックな形で提案できるのではないかと思います。もう少し時間がかかりますが、お待ちください。

○ 委員

楽しみにしております。松坂屋のオーケストラの話は、必ず本には書かれておりますが、詳しいことは見たことないものですから。今後研究を進めていただければと思います。ぜひ拝読したいと思います。

○ 芸術大学

松坂屋のオーケストラの本がありますけども、あそこに掲載された写真のほとんどは、寄贈されております。

○ 委員

法人の37番についてです。とても大事なことだと思います。指標として、①で、愛知県との意見交換会などをすると書いてあります。これについては、愛知県の事務局との意見交換会なのでしょうか。先ほどのお話もありますので、もう少し広い範囲で、意見交換などを行うという方が良いのではないかと思います。

○ 大学法人

それぞれ関わりのあるセクションと、具体なお話をさせていただいております。第四期でも継続していきたいと思います。具体的に取組はやっていきます。

○ 委員

愛知県は幅広な組織で、色々なものがあると思いますので、そういったものをぜひ利用していただければと思います。

○ 委員

その他に、ご意見等はありませんか。

(意見無し)

○ 委員

様々な御意見をありがとうございました。本日出された意見につきまして、中期計画の取りまとめに向けて、適切に対応していただきますよう、よろしく願いいたします。次回1月に開催する第68回評価委員会では、本日もいただきました各委員からの御意見を踏まえ、引き続き中期計画(案)の認可に係る意見審議を行いたいと思います。本日予定しておりました議題は全て終了しました。円滑な運営に御協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局から連絡事項をお願いいたします。

○ 事務局

ありがとうございました。今年度につきましては、1月及び2月に第四期中期計画(案)に対する意見について、御審議をいただく予定となっておりますので、後日、日程調整をさせていただきますが、11月末の任期満了をもちまして、2名の委員が退任となります。本当にありがとうございました。それでは、以上で第67回評価委員会を終了いたします。

以上

会議録署名人

会議録署名人